

# 知られざるブルキナファソ特産品 いちご

市場志向型農産品振興マスタープラン策定プロジェクト(PAPAOM)報告書より



# 西アフリカ唯一のイチゴ輸出国

1

西アフリカでは、唯一、イチゴを輸出している国。

2

1970年代後半頃からイチゴ栽培が行われている。

3

今後の域内市場の経済成長に伴う需要の増加が見込まれる。

4

しかし、アビジャン、アクラ等の大都市におけるフランスやモロッコ産等との競合にさらされており、品質改善、梱包改善、安定供給が求められている。

# 1. 主要生産地は首都近郊

## 生産地



生産地は首都ワガドゥグ郊外のブルミウグ・コミュニティの一箇所のみ。イチゴ生産の他、野菜栽培も行っている。

年間生産量: 20~30トン前後  
(推定)

- 生産者からの2013年販売量の聞き取り情報を基に推測。
- 生産量の統計データはなく、生産者グループも把握できていない。

## イチゴを含む野菜生産者グループの概要

グループ名	会員数	野菜栽培面積 (ha)	イチゴ栽培面積 (ha)
Wend Manegda	55	3	0.5
Teega Wendé	65	4	0.75
Wend Songda	70	8	1
Nabons Wendé	120	12	1.5
Sougr Nooma	150	15	3.5
Groupement Feminine	35	2	0.25
Total	495	44	7.5



ブルミウグ栽培地

# 2. シーズン4ヶ月で価格1/3

## イチゴの作付体系

作業項目	J	F	M	A	M	J	J	A	S	O	N	D
育苗					■	■	■	■	■			
移植										■	■	
開花	■	■	■									■
収穫	■	■	■	■								

❖ 収穫は年に4回

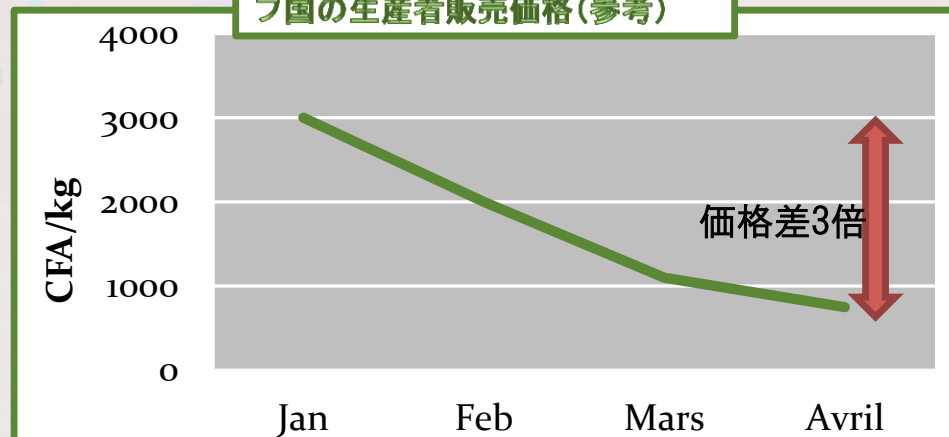


栽培品種のほとんどは一季成り性品種 **Selva種**。1994年から1997年にフランスのNGOにより導入された。

生産者によると、これまで栽培した品種の中で、Selvaが最も栽培に適していた。

栽培方法も、1940年代からの長年の経験からこの地に適した形に工夫されている。

## ブ国の生産者販売価格(参考)



出荷時期は1月～4月。シーズン初期は生産量が少なく実も大きいので生産者販売価格は2,500-3,000FCFA/kgと高値だが、2月、3月と価格が低下。3月は実が小振りとなり1,000FCFA/kgとなる。4月はさらに実が小さくなり、価格は750~1,000FCFA/kg程度になる。

# 3. 流通する市場

## 近隣諸国

- ❑ 輸出量統計はなく、生産量に対する輸出の割合は不明。
- ❑ 一部の生産者により、コートジボアールAbidjan、トーゴLomé、ベナンCotonouへ空路販売されている。
- ❑ モロッコ産やフランス産と競合。

### アビジャンのスーパー店頭価格(参考)

	価格(CFA/kg)
モロッコ産	9000
フランス産	27000



## ワガドゥグ

主な市場はワガドゥグ在住の外国人等の高所得者層。



アビジャンスーパーで販売されるブルキナ産イチゴ



アビジャンへ輸出されるブルキナ産イチゴ



# 4. 「ブルキナ」ブランドの確立へ

## 1 近隣国大都市への販路確保と「ブルキナ」ブランドの確立

- 今後目指す市場として、近隣国の大都市であるアビジャン、アクラの卸を仲介としたスーパーマーケットが最も有望。客先となるスーパーマーケットの要望に応えるべく、小売用のビニルパック詰め、鮮度保持等が必要。
- 両都市におけるブ国産イチゴ(生鮮、ドライ両方)の販売プロモーション活動の展開も重要。

## 2 ブ国内向けの付加価値販売

- 現在、小売段階ではタライによる販売が一般的。少量のビニルパック詰め、ドライイチゴなど、客先となるスーパーマーケット、ホテル、レストラン、カフェなどへも要求に応じた付加価値販売を開拓する必要あり。



ワガドゥグのレストランの季節デザート